

大谷産業株式会社

ものづくり技術

一般型

オリジナルの生活収納家具を展開 新デザインのラインを追加

事業内容

一人ひとりの暮らしに合った収納を実現する 収納家具の専門メーカー

和歌山市に本社工場を置く家具メーカー。東京銀座・青山、大阪御堂筋沿いといった大都市の一等地に、ショールームを兼ね備えた直営店舗を構え、書斎やリビングダイニング、キッチン、寝室、TVボードなど、収納に関する多彩な提案をし続けてきた。直営店で一般個人向けに販売するB to Cの事業に加え、三井不動産や野村不動産といった大手デベロッパー経由での販売も相応にあり、一般個人からだけでなく、企業からも同社製品に対する信頼は厚い。

1988年（昭和63年）に、日本人の暮らしと住まいに定着するスタンダードなシステム収納を目指してスタートを切った「生活収納家具」シリーズ。発売当初1シリーズ・4色の表面材であったものが、現在は6シリーズ・37種類のデ

ザインバリエーションを持つシステムにまで成長した。顧客のオーダーに応じた受注生産体制である「邸別生産システム」で、事業を推進してきた結果と言える。

近年は全国規模でチェーン展開する大手家具メーカーの台頭が目立つが、同社はそれら企業と一線を画す。同社の「生活収納家具」シリーズは、多種多様な部材や部品で構成されるシステム収納家具で、使う人それぞれのニーズに合ったものを組み合わせることができるという特長を備えている。そのためリピート率が高く、少しずつ同社の収納家具を買い揃えていく顧客が多く、幅広く長きに渡って支持されている。

補助事業

新たなラインの追加に合わせた 加工工程の改善

これまではシンプルでモダンなデザインの家具が好まれる傾向にあったが、ここ数年は優美さを備えたすっきりとしたデザインの家具にトレンドが移行しつつある。現在はF、S、G、V、C、Bの合計6シリーズの展開であるが、新たに“エレガント”を開発テーマとしたEラインを加えて、ニーズに対応していくことを決めた。

しかしながら、Eライン商品の新デザインには装飾モールが用いられるため、モール加工工程における問題点の改善が必要となってきた。具体的には、加工精度面、安全面の改善が特に急務となっていた。

これらの問題解決のために、モールの加工工程で木材の切断に使用される留切機を購入し、設置した。切断をデ



▲モール加工機

ジタル数値で自動制御し、安全面に配慮された同機械の導入によって、加工工程自体の見直しも進めた。

大谷産業 株式会社

代表取締役社長 大谷 竹男
〒649-6331 和歌山市北野201
TEL: 073-462-1555 FAX: 073-461-8002
URL: http://www.otani-s.com/

〈業種〉木製家具製造業
〈設立〉1973年5月
〈資本金〉10,000千円
〈従業員〉45人

〈営業所〉ギャラリー収納銀座
〒104-0061 東京都中央区銀座5-12-5 白鶴ビル1階
TEL: 03-3524-0810
FAX: 03-3524-0812

成果

本格的な販売に繋がる Eライン商品のバリエーションの拡充も検討

今回の留切機の導入により、これまで目視によって維持していた加工精度が、機械化されたことから格段に向上し、製造する人を選ばず誰でも同じ結果を容易に出すことができるようになった。加工手順もシンプルになった上に、手指が刃物に近づけなければならない危険な作業から、手指が刃物に近づくことのない安全な作業へと大きく改善された。

さらに、従来は数人がかりでスペースを確保して作業していたものが、機械の設置スペースが大幅に小さくなり、作業スペースも大きく確保することができるようになった。結果的にそれらの改善が奏功して、不良品も減少している。

販売面でも評価は上々であり、顧客からも良好な反応を得られている。現在、Eラインの製品は「白色」しかないが、

今後は、良質な木をそのまま使った木目を強調した商材を展開していく予定である。そのためには、ネックとなっている販売価格帯の抑制が課題となってくるだろう。



▲エレガント&シンプルが特徴

今後の展開

リフォーム需要の取り込み 事業拡大よりも品質優先

新築マンションや新築戸建住宅の新規需要にそれほど大きな期待ができない中、今後はリフォーム需要の取り込みに注力していく。特にマンションリフォームでは、収納家具メーカーとして室内空間に今までにない価値をどのように生み出していけるかが鍵となっている。部屋を収納家具で間仕切りし、新たな空間を創り出すことでユーザーの目を引いていければと考えている。

これはマンションが多い大都市だけでなく、その周辺地域の新たな需要も掘り起こすポテンシャルがあると確信し

ているが、まずは大都市のユーザーの需要をどれだけ取り込めるかに焦点を絞って取り組んでいく。

また、海外市場に目を向けるのではなく、日本人の暮らしにどれだけ定着させることができるかという“品質”に主眼を置く。事業拡大よりも高品質の追及を優先し、「収納とは何か?」、「究極的な収納家具とは何か?」といった問いの答えを突き詰めた製品づくりに力を注いでいく。多くのユーザーが、同社のショールームで画期的な製品に出会えることを楽しみにしている。



▲人気のTV壁面収納



▲店舗用ラダー付きオープン棚